

【32】 水産”小国”日本

この頃、家内に替わって近所のスーパーマーケットに買い物に行くことが多くなり、生鮮食料品の出荷時期や価格の変動に関心を持つようになりました。魚介類はというと水産王国のイメージがありますから、たいていは国産と思い込んでいましたら、これが大間違いなのです。国内産というと、サンマ、イワシ、アジ、ブリ、タイなどの季節的な鮮魚や沿岸産の類で、保存のきく魚や半加工品は外国産が多いのです。興にかられて、魚のトレイを片端しから裏返しして裏に表示のある原産国をみると、あるわあるわ、例を挙げると、

エビ	インド、インドネシア、ベトナム、アルゼンチン、ペルー、エクアドル
イカ	アメリカ、ペルー
カニ	ロシア
タコ	モーリタニア
サケ	チリ、ロシア
タラ	アメリカ、ロシア
シシャモ	カナダ、アイスランド
サバ	ノルウェー、イギリス

等、きりがありません。エーッという感じです。

地理に詳しい積りの私も、アンデス山中の赤道直下のエクアドルに海があったかな、モーリタニアって何処の国だろうと、家に帰ったら地図帳で確認する有様です。

金目鯛なんて伊豆の特産と思い込んでいたら、“ミッドウェー産”とあり、太平洋戦争の一場面を連想する始末です。マグロは”太平洋産”ですが、中には”太平洋産（韓国）“というのもあり、韓国の獲ったものを輸入したことがわかります。マルタ産というマグロもあり、これは地中海産ですね。

改めて統計を見てみると（日本国勢図会 2024/2025, 2024 年 6 月）、2022 年のデータで、わが国の水産物生産は、

海面漁獲量	295 万トン
養殖生産量	91 万トン
内水面（含養殖）	5 万トン
計	391 万トン

輸出量	79 万トン
国内向	312 万トン ← これは、海外からの輸入量 378 万トンより少ないのです。

かつての日本は 40 年前の 1985 年には全世界の漁獲高 8500 万トンのうち 13% の 1144 万トンの世界

一の水揚げを誇る水産王国だったのですが、現在では世界の漁獲量 8100 万トンのわずか 4 % の 300 万トンしか獲らない（獲れない？）水産小国に転落しました。

平成 8 年当時全世界の GDP の 18% を占め、アメリカについて世界第 2 位の経済大国だった日本が、今やわずか 4 % にまでそのシェアを下げたのと全く良く似ている状況で苦笑させられます。

なお、現在のわが国の漁業従事者数は、わずか 12 万人で、全人口の 0.1%、これはその消滅が心配される基幹的農業従事者数 120 万人のさらに 10 分の 1 にしかすぎません。